

「美濃市第6次総合計画 基本構想（案）」に対する意見募集（パブリック・コメント）の結果について

1 実施状況

- (1) 募集期間 令和3年1月1日(祝・金)から令和3年1月31日(日)まで
- (2) 意見提出者数 4人
- (3) 意見件数 5件
- (4) 提出方法 下表のとおり

提出方法	書面	郵送	ファクス	電子メール	計
人数	3人	—	—	1人	4人

2 提出された意見の要旨とそれに対する市の考え方

No	区分	提出された意見	市の考え方
1	全体について	一読してよく練られた内容だと思えますが、全てが出来るものではないことは明白です。次に大切になってくるのは基本計画でより具体化したプランですので、それを公開に市民の意見を聞くように配慮して下さい。市政は全てに目配せをするのは当然ですが、実現可能なものを拾いあげ、メリハリをつけた施策を願っています。そうしないと総花的となり「美濃らしさ」が失われてしまいます。	計画を策定することが終点ではなく、いかにして実現させていくのが重要と考えていますので、具体的な事業については、毎年の予算策定の中で十分検討して参ります。
2	基本理念について	最も大事な【市民憲章】を軸に6次総は草案すべきである。	市民憲章につきましては、市民の心構えや行動規範などを示したものであり、まちづくりの根底をなす重要なものであると認識しておりますが、総合計画につきましては、近年の社会潮流や本市の課題等、様々な要素をもとに策定するため、このたびは分けて検討しております。
3	将来人口について	人口減少をゆるやかとなるよう努めるとあるが、なぜ計画段階にもかかわらず人口増加を目標にしないのか？	全国的な人口減少、少子高齢化を踏まえるとともに、近年の本市の人口動向をもとに将来人口を推計すると、現実的に人口増加の施策を行ったとしても大幅な人口増加は困難な状況となっております。そのため、今回は人口を維持することを目標としております。
4	基本理念並びに将来都市像について	「市民と共に創るまち」とはどんなまちなのか。どんなまちを創っていくのか。市民一人一人の多様性を理解しつつ、寄り添いともに助け合い繋がることを通じて進化していく協働のまちなのか、子供から高齢者まですべての人が安心して暮らしていけるやさしいまちであり共に支えあって生きる共生のまちなのか、人口減少が進行する中、次世代を担う子供たちが夢や希望を持ち、活力と活気にあふれる持続可能なまちなのか。まちづくりの考え方がわかりづらくめざす姿がわからない。誰一人取り残さないまちづくりを考えたとき。住んでいて良かった、そしてこれからはずっと住み続けたいと思えるまち。豊かな自然と共生しつつ、人が織り成す元気に惹かれ、行ってみたくなるまち。ふるさとを離れていてもいつでも優しく迎えてくれる親のようなぬくもりのあるまち。親から私たちへ、そして子どもたちへと受け継がれていく人々の絆。子どももお年寄りも、ハンディキャップのある人も無い人も、すべての人が生活を楽しめる「やさしい絆」に満ちたまち。未来の実現に手を取り合う人と人の絆。私たちの未来を自分たちで考え、決めていく自律のまち。私たちは「やさしい絆」を支える思いやりの心を大事にしながら、活力に満ちた安全で安心な暮らしやすいまちを目指す、そんな言葉を基本理念並びに将来都市像に入れていただきたい。 また将来都市像の「一人ひとりが挑戦」の言葉、市	基本理念、将来都市像につきましては、総合計画審議会において検討を重ねて決定したものです。言葉の背景や、感じ方等につきましても、審議会委員の皆様より多様な側面から検討をいただきました。 今回の第6次総合計画は、策定段階の当初から市民参加を基準として取り組んで参りました。考える会のメンバーは公募をし、67名の方々の参加をいただき、大変感謝しているところであります。 考える会やアンケート調査などを基本として素案を策定し、総合計画審議会委員の皆様にご議論いただきました。 いただきましたご提案については、基本構想全体の中に、包含されていると考えております。

No	区分	提出された意見	市の考え方
		<p>民一人一人が自分の夢に向かってチャレンジできる環境はそれぞれの基本計画の中に取り入れて挑戦したい人は挑戦できる取り組みを施策の方向として明示。すべての市民が何かに挑戦しようと思っている訳ではなくこの言葉をこの10年の将来都市像とすることに違和感を感じる。もう少し多くの市民の願いを込めた言葉、将来都市像の基盤として考えてある社会的な健康を目指す都市像としてはと思います。人々が健康で、かつ、生きがいを持ち安全安心で豊かな生活を送れる状態を、「健幸（けんこう）＝ウエルネス」と呼びます。市民が健やかで幸せにとの願いを込めた「健幸」という理念。この理念を基本目標にあるまちづくりの要素全てに広げ、超高齢社会・人口減少社会においても持続することができる美濃市の将来性を示すべきではないかと思います。</p>	
5	将来都市像について	<p>疲弊した市民、日々の食にも充足感が得られない市民、引き籠りに虐め、更にリストラ、自粛生活等々で日々を生き抜く事で疲れ果てた市民がどれだけいるか？「挑戦・夢」はスローガンであり、将来都市像を言葉遊びで現実からの回避である。この緊急事態に、ゆとりある市民の為の6次総であってはならない。</p>	<p>将来都市像についても、基本理念とともに、総合計画審議会において検討を重ねて決定したものです。言葉の背景や、感じ方等につきましても、審議会委員の皆様より多様な側面から検討をいただきました。</p>